

平成27年度 第2回 美保飛行場周辺まちづくり計画検討委員会 議事録

日 時 平成27年11月11日(水) 午後2時～午後3時40分

場 所 境港市民会館大会議室

出席者 【委員会委員】

丸田委員、増谷委員、木村委員、池淵委員、安倍委員、足立委員、松本委員、梅木委員、湯越委員、梶谷委員

【オブザーバー】

中国四国防衛局企画部 周辺環境整備課(江口施設対策第1係長)

中国四国防衛局企画部 周辺環境整備課(遠藤施設対策第1係員)

中国四国防衛局 美保防衛事務所(笹岡所付係長)

航空自衛隊美保基地渉外室(森基地対策専門官)

【事務局】

木下防災監、藤川教育委員会事務局長、黒崎生涯学習課長、山田自治防災課長、手島自治防災課危機管理室長、園山都市整備課建築指導係長、浜田生涯学習課生涯学習係長、竹内生涯学習課文化体育係長、古徳教育総務課管理係長

【コンサルタント】

中日本建設コンサルタント株式会社(庄村、吉見)

1. 開会

2. 委員長挨拶

3. 委員紹介

4. 報告事項

(1) 第2回市民ワークショップの報告

・事務局 説明(資料1)

以下主な意見

・このワークショップに関して、参加者の性別、年代別等の割合はわかるか。(委員)

→参加者26名のうち、アンケートに答えられた方が23名で、その性別の割合については、女性が6名、男性が17名。年代別では、30代が1人、40代が2人、50代が4人、60代が8名、70代が7名、80代が1名で、高齢の方の参加が多く、アンケートでは若い世代の意見を聞く場が必要ではないかというご意見をいただいています。(事務局)

・竜ヶ山周辺の場所の話をして、野球場の横の場所のことに皆さんの意見が集約されています。(委員長)

→やはり、ここはスペースがあるということと大きい道路に面しているということと、一番大きい理由は、近くに住宅がないので、騒音や照明などの地域住民への影響が少ない

からだと思います。(事務局)

- ・先ほどの委員の話で、もう少しワークショップに若者を呼び込む手立てとかは何かないでしょうか。年齢層のばらつきが結構ある気はする。(委員長)

→1回目は、市報とかホームページで募集をして案内した。2回目は、市報等で掲載できなかったということもあり、3回目については、市報等でもお知らせしたい。

問題は、その若い人をどういうふうに参加していただくか。例えば、青年会議所さんからも意見をいただいたので、会議所から若手をたくさん出ていただくとか、若い人の団体に声を掛けて来ていただくようなことも考えたいと思っています。(事務局)

- ・出前ワークショップなどがよいのでは。例えば、高校に出かけて行って、1時間ほどワークショップをさせてもらうとか、青年会議所の例会に出かけて行ってワークショップをすとか、これからの世代が使う施設として、何かそういうアプローチができれば、もう少し幅が広がるかなという気がしている。(委員)

→以前、高専の生徒が市民会館の改修イメージを発表する場がありました。また、防災の説明会をして、市民の皆さんと意見交換をしたこともありましたので、そういった形で行うことも非常に有効かと思います。委員とも相談の上で、考えていきたいと思っています。(事務局)

- ・市役所の中でも奥さんとか親戚の方に、積極的にアプローチをしてほしいという気はします。(委員長)

(2) 複合施設建替えと耐震改修の比較

- ・事務局 説明(資料2)

以下主な意見

- ・特に意見なし

5. 協議事項

(防災監)

協議事項に入る前に念頭においていただきたい事項3点について申し上げます。

1つ目は、基本理念である交流、防災の拠点づくり、みんなが集まる広場のような複合施設であること。

2つ目は、これは、防衛省のまちづくり事業の補助目的である自衛隊員との交流、防災、との関連がないと、その部分は補助対象から外れる可能性があるということ

3つ目は、今後の人口推計で、現在、境港市は、大体約3万6,000人の人口で、25年後、平成52年には約2万7,000人減るということ。

以上をしっかりと踏まえた上で、施設規模は検討していただきたいと思っています。

(1) 交流拠点に必要な施設内容・規模・ゾーニングについて

以下主な意見等

- ・ホールの客席数が 800 ということで、稼働率等も関係する。
防災については、やはり広いスペースが必要になるため、可動式は有効であると思っている。シャワー施設もよいのではないかと思う。備蓄等は、市の備蓄倉庫は市内にある各企業のところの在庫数とかも、多分、見られて設定されておられると思うので、適当な大きさではないかと思っている。(委員)
- 備蓄については、やはり分散備蓄を考えていく必要があるのではないかと考えています。
ここでは、あまり大きなものは考えておらず、ある程度のスペースに分けて物を置いていきたいと考えています。(事務局)
- ・このホールだけの大きさで考えているのであれば、楽屋等を含めてリハーサル室や音響を考えてほしい。
駐車場に関しては、もう少し具体的なものがあってもよいのではないか。
会議室は、部屋の中でパーテーションを打って仕切りを考えられていると思っている。
その他、広場的なものも当然考えられていると思うが、もう少し具体的な話にならないとわからない。また、建物間のスペースを考えてほしい。(委員)
- ホールとしては、楽屋等の機能は当然考えている。そのあたりの全体の建物についても次回にお示ししたいと思っています。
駐車場についても、次回には、ある程度、どういった建物全体が配置になるのかというところをお示しして、説明させていただきたいと思います。(事務局)
- 公園との一体感という御質問については、構想の段階からも委員の皆さんからたくさん意見をいただけており、高専の生徒の発表会の中でも出ていました。これについては検討をしているところです。
駐車場の話も、今回の基本計画では、形以外のものを決めるということで、具体的な建物配置のゾーニングのようなものは、ある程度はこの計画で示しますが、実際に建物の規模はどうなるのか、どういう配置になるのかというのは、次の基本設計の段階に入ってくると考えています。
まずは、どのぐらいの規模になって、どのぐらいの敷地面積が必要かというところをしっかりと押えないといけないので、今、規模をしっかりと検討して、その次がどうなるかという中でお示ししたいと思います。(事務局)
- ・座席については、今の仕様では前後の幅が大きくなっており、昔の映画館のような狭いものは逆につくれない。800 席であっても、駐車場も含めて、この敷地の中では、なかなか大変だなと個人的には思った次第である。(委員長)
- ・今までのホールの大きさよりは、今言われたように(幅を)変えるのなら、それは一番いいと思う。また、可動式と固定式の併用ということで、是非、それはやっていただきたいなと思っている。備蓄の面についてもよいし、高齢者の福祉機能についても、今

までの保健センターでは、多分、狭くて場所もない。今までの市民会館の場所ならば集まりやすい。(委員)

- ・ホールの希望の席数については、やはり、今 1,100 に対して 1,000 ぐらいは何とかほしいと思う。心がすさんでいるときは、そういった文化的なものや芸術的なものが、ホールを使って披露されるということが、また心の癒しにもなるし、勇気にもつながると思う。(委員)

- ・ホールについて、可動式、固定式の比率は、もう考えているか。(委員)

→可動式部分を多くすれば、多目的ホールの部分が多くとれると思いますが、現在、検討中です。前回の会でお示した阿波市では、可動式、固定式を含めて 645 席であり、そのうち固定式は 198 席で約 3 割ぐらい、7 対 3 ぐらいの割合になっています。(事務局)

- ・個人的な考えでは、可動式で。多目的に使うということが防災という面からもよいと思っている。

今は、舞台が真ん中で、それを周囲が取り囲むようにした演劇や歌、音楽などもあって、可動式なら、新しい演劇の形なども、楽しむことができるのではないかと思っている。

図書館については、今、本当に狭く、5 万冊が開架で 10 万冊は閉架のままである。しかもその 5 万冊開架は、下から上までぎっしり詰まった状態での開架になっている。低い棚での開架にすれば、今度はもっと広いスペースが必要になる。

さらに、障がい者の方たちが車椅子で通ことになると、1,600 m²というのがぎりぎりかなと思う。それよりももう少しゆとりを持ったスペースがほしいとも思っている。

会議室については、市民活動センターとボランティアセンターが一緒になった部屋があるが、この複合施設の中に取り入れて本当に市民の皆さんの集まってくる場所にしていくのならと思っている。(委員)

→市民活動センター等につきましては、施設の全体の配置の中で考えていきたいと思っています。(事務局)

- ・市から説明があり、資料を見ると、理想はもっと高いけれども、なかなか難しいということはわかった。ただ、多分、これが最後の機会だと思うので、意見を言うと、やはり 1,000 人規模（の施設）があると境港にたくさんの人を呼ぶことができる。いろんな研究大会などがあり、ある程度人数が入るホールでないと、境港市へ呼ぶことができない。文化ホールは、もっと文化的なことが、本当に素晴らしいことができるホールにできるのが一番いいのではないか。(安部委員)

→これまでもお話ししているように、この市民会館をどうするかということが事の発端であり、皆さんからは、何とかこの建物を残して何とかしてほしいという意見がある中で、市が単独事業で建て替えということは、何十億円という事業費であり、まず不可能です。その中で、防衛省のこの事業の中であればもしかしたらできるかもしれないということで議論をいただいています。そうなる、やはり補助事業ですので、補助目的に合致しないとこの補助金が下りない。冒頭でも申し上げたように、やはり、自衛隊員の交流、

防災、そういうことも加味しながら文化的な交流も含めて検討しているところです。

したがって、これまでのように稼働率が低いということになると、補助を受けることは非常に厳しいこととなります。(事務局)

- 本当に限られた中で考えなければいけないし、人口減というのは、もう将来にわたってわかっていることであり、また、人口の構成、年齢的なものもかなり想像がつく将来というものがあるため、身の丈に合ったものを考えたいと私は思っている。

それで、その市民が何を求めているかということと、交流をするに当たってはどのようなふうにしたら、交流が深まったり、交流イコール防災なので、日ごろからの人間関係が防災につながる。そういう交流ということを考えると、複合式という言葉は必ず必要である。

席数については、800席というホールの規模も人口には案外過ぎた数なのかもしれないが、それでも何か催しをするとすると、ある程度の利益を得るためには、余りにも小規模では難しいし、やはり、市民の自慢になるような施設というようなシンボリックなものになると思うので、最低800はほしいと思う。

可動式、固定式というのも、まだ3年先ですので、将来にわたって技術が進歩することをおかなり期待して、音響とかいろんなことが大分改善されると思う。

一番考えるのが建設後のメンテナンス。それこそ、後に負の財産を残さないように、メンテナンスなどを考慮していただきたい。

図書館機能については、広ければ広いほどいいには決まっているが、限られた中であるため、その中をどのように有効的に、子供たちのスペースとか、いろんな資料のスペースとか、そういうものを効率的に配置するような知恵を絞って考えなければいけない。

会議室は、今の状態と違って、かなり使い勝手のいいものに、全体の中で考えられると思うので、そういうことを期待して、必要なものをそろえていったらよいと思う。

収納も今までの収納と違った便利のいいものに、また、機能にしてもいろいろ考えていただきたいと思っている。(副委員長)

- 基本理念に則って、全体のバランスを考えるとこうなのかなというのが率直な感想である。ホール規模についても、今のスペースを考えると800が妥当なのかなとも思う。1,000席あったほうが、もちろん理想的ではあると思うが、全体のバランスの中で知恵を絞っていただきたいなというところは正直ある。

可動式と固定式に関しては、稼働率を上げるということがやはり一番大事であると思う。是非、可動式にさせていただいて、いろいろな活用ができる市民のための場所という意味で検討していただきたいと思う。もう少し大きい町であってお金もあれば、文化コンサートホールみたいなことができると思うが、やはり、身の丈に合ったところで考えると、これぐらいの程度なのかなというふうには思っている。

会議室の機能については、正直、使いにくい部分もあるため、しっかりと考えていただいて、利用しやすい会議室になればと思っている。(委員)

- ・基本的には、先ほど説明いただいたとおりで、大体よいと思っている。
その中で、駐車場というのは、やはり必要であるため、是非、何とか確保していただきたい。とにかくシンプルでいいから頑丈な建物、メンテナンスの少ない建物というのが第一の希望である。(委員)
- ・私が意見を述べる立場にあまりないが、日進月歩で建築が、設備系というのが非常に進んでいる。可動式、固定式という概念が今あるかもしれないが、数年後にはなくなるのかもしれない。それは、本当の何デシベルの音がというレベルで比べればそうですけれども。エネルギー効率、電気代も全く同じことです。この分野でも日進月歩であり、ホールとしては非常にいいものができると思っている。
また、つくったらおしまいではなくて、作りながら、いろいろな工夫をして稼働率を上げていくということ、期待していきたい。
この原案に従って進めていくことで了解していただいたということで次に行きたいと思えます。(委員長)

(2) 竜ヶ山公園周辺エリアにおけるゾーニングについて

以下主な意見

- ・避難所としたとき、体育館ではシャワー施設があるとよい。また、電源確保については、ソーラー、蓄熱システム等々を置いていただければいいかなと思う。(委員)
- ・全体的にいいと思う。ただ、備蓄倉庫もあったような気がする。(委員)
- 備蓄倉庫については、それ専用の建物を建てるというわけではなくて、体育館の一部を利用してその備蓄品を置くということを考えているところである。(事務局)
- ・体育館だけと思っていたが、屋根つきのこういうグラウンドみたいなものがあれば、物を入れたり、防災のときに物を置いたりするのにも、十分に対応できるだろうと思う。(委員)
- ・場所的には、ここかなと思う。2つつくることは工事費等がかなりかかり、なかなか難しいのでは。もうほかに場所もないので、下を屋根つき広場で、その2階から上が体育館になるという、そういう重ねて新たなスペースとするといいかなと思う。(委員)
- ・屋内施設がまた一つできるということ、それから、屋根つきの広場ができるということがとても嬉しい。これから本当に若い人たちにとっても嬉しいことだなと思っているし、機能回復訓練ができるような、そういう場所もあったらいい。(委員)
- ・特に意見はないが、運動人口が非常に多いということだと思う。そういう意味では、体育施設の実績、文化関係の実績を見ても、これはもう仕方ないことであって、体育施設についてはとても羨ましい。できるだけいい形に、この竜ヶ山公園の周辺はしていただければと思う。(委員)
- ・屋根つき広場というのは、この竜ヶ山のシンボルになるかなと思っている。本当にこれから高齢化になって、グラウンドゴルフとか大会も結構たくさんあるし、稼働率を考え

ると、本当にすごく使用されるのではないかなという予想が立っている感じがする。

体育館のほうも、やはり、利用率100%ということは、まだ足りないという状況かなという気がするし、本当に、新しい竜ヶ山が、いろいろな野球場、陸上競技場という施設がそろるので、これから、活用の範囲もかなり広がるかなという期待が持てる。

防災の面でも自衛隊との交流の面でも、何かしらまた新しい事業がこういう施設を使ってできるかなという、そういう思いもある。

場所的には、やはり私もこの場所がよいと思う。これには賛成である。(副委員長)

- ・いろいろ、屋根つきの運動場と考えると、かなり利用率が上がると思う。今までにない新しい施設ということで、すごく期待が持てると思う。とてもいい方策かなと思っている。(委員)
- ・場所については、最近どんどん苦情が多くなるのは、住民の方から騒音などに対するものがあり、そういった意味も、場所的には、絶対ここが一番いいと思う。ましてや、道路から即入れるということで、一番いい場所だと思っている。
確かにこの屋根つき広場も非常に期待しており、いろいろな新たなイベントができると期待している。いい案だと思っている。(委員)
- ・この協議事項については、皆さん方から、いろいろな期待するという意見が一番多かったと思うし、利用率も非常に高いということである。これはもう了解ということで進めていくものとします。(委員長)
- ・今回は、自衛隊員との交流促進についてというのがテーマの一つに入っており、ここが非常に大きなウエイトを占めることになるため、各委員の皆さんも、どんなものでもよいので御意見をいただきますようお願いいたします。(事務局)

6. その他

- ・今後の日程

7. 閉会式